

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1062 号	氏 名	丸 山 康 弘
論文審査担当者	主 査 中山 淳 副 査 宮川 眞一・伊藤 研一		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>ヒアルロン酸をリガンドとする接着因子の CD44 は様々な悪性腫瘍において癌幹細胞のバイオマーカーとされており、本研究ではそのバリエーションのひとつである CD44v9 に着目した。臨床的には、CD44v9 陽性細胞数は癌患者の生命予後と関連することが報告されている。今回我々は、消化管悪性腫瘍の中でも比較的まれな疾患である十二指腸癌を対象に、臨床および病理学組織学的な検討を行った。同疾患の癌幹細胞に関する報告は稀少であることから、特に、十二指腸癌における CD44v9 陽性細胞の癌幹細胞としての特徴に注目した。</p> <p>【対象と方法】 長野県内の施設にて診断された十二指腸癌 29 症例を対象とした。十二指腸癌の臨床および病理組織学的特徴を評価するために、CD44v9、MUC2、MUC5AC、および MUC6 の免疫組織化学的な解析を行った。さらに、CD44v9 と Ki67 (核分裂能の評価)、cleaved caspase 3 (CC3、自己融解能の評価) との 2 重免疫蛍光染色法による解析を行った。この解析では、癌組織の CD44v9 陽性細胞が高い割合の領域と低い割合の領域を、それぞれ CD44v9 陽性領域および陰性領域として設定した。統計学的な解析にはカイ 2 乗検定およびスピアマン解析を用いた。また、十二指腸癌術後の生存期間の比較に関しては Kaplan-Meier 法を用いて評価を行った。</p> <p>その結果、丸山は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. CD44v9 は十二指腸癌において炎症細胞浸潤と粘液形質 (MUC6) と関連していた。また単核細胞は CD44v9 陽性細胞周囲に集簇していた。2. CD44v9 陽性細胞は核分裂能が低く、自己融解能も乏しいことから、十二指腸癌における癌幹細胞である可能性が示唆された。3. 十二指腸癌の術後の生命予後は病理学的 stage および grade と関連したが、CD44v9 陽性細胞の有無との関連性は明らかではなかった。 <p>本研究において、CD44v9 陽性細胞が十二指腸癌における癌幹細胞である可能性を示唆した点は新発見であり、今後、十二指腸癌の病態解明や治療法の開発に役立つ可能性がある。よって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			